

”夢の工場”を目指す。

Made in Kirishima の ”ものづくり”

キリシマ精工株式会社

社長は、元営業マン。
創り出すのは、人の絆と夢。
霧島から技術力で魅せる。



キリシマ精工株式会社
代表取締役

西重 保氏

Nishishige Tamotsu

今年で創業10年目を迎えるキリシマ精工株式会社。

新工法カーブカット工法という独自の技術で、あらゆる業界へ事業展開。

2008年/2016年、鹿児島県の経営革新の承認を受けるなど、その高い技術力を鹿児島から発信し続ける。

光通信、半導体、医療、宇宙・航空等多岐に渡る精密金属加工を手がけ、お客様の新しいニーズに応え、今なお進化を目指して行く。

新工法カーブカット工法

応用が効くマシニング加工で新工法を開発。

通常かかる工程を一発加工に短縮。

それにより、顧客へ提供するバリューとして

「生産工程の削減」・「コスト削減」・「品質の安定」を実現。

それにとどまらず知恵と技術を持って、新しい挑戦を続けている。



▲ キリシマ精工の精密加工製品

浮いている「匠」の文字を押すと～「匠」の文字が消える？!



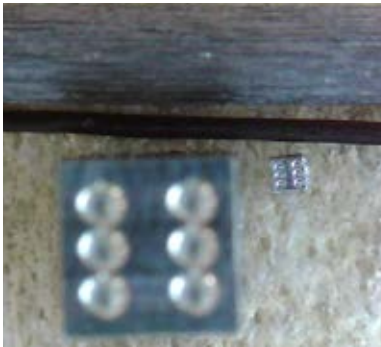
▲ 本社・工場外観



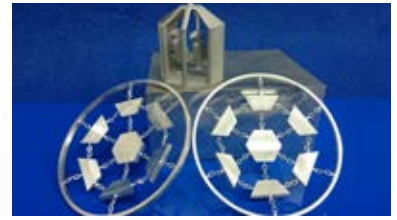
▲ 工場内の様子

DATA

設立 2006年8月
本社 鹿児島県霧島市
国分川原918-7
従業員数 31名
事業内容 精密金属加工
難削材 (KOVAR,SUS等)
光通信・半導体・医療
宇宙航空 etc
ISO9001&4001
www.kirishima-seiko.jp
TEL / 0995-73-4311



▲ 世界最小 200 μ m(0.2mm)サイコロ
カーブカット工法の応用により製作。
※写真上より、シャープの芯(0.5mm)
髪の毛、世界最小サイコロ



▲ チェーン部分も一発で削り出される。



▲ カーブカット工法により削り出された
真鍮ピラミッド

人の生み出す技術の力

当社は、難削材(KOVAR・SUS等)の精密金属微細加工を得意とし光通信、半導体、医療、宇宙・航空の分野で事業展開を行っています。

当社の強みである新工法カーブカット工法という技術は、通常製品ができるまでの従来要する行程を品質を維持しながら、一発加工で行う技術です。この技術の開発により、お客様に「短納期」・「コスト削減」・「品質の安定」という当社ならではの価値を生み出すことができました。会社としても2008年、2016年と鹿児島県の経営革新の承認を受けています。

会社設立当時からこの新工法の構想と自信はありました。設立時、精密金属加工の事業を行っていく上で何を主として展開していくのか。マシニング加工は応用が効くので、マシニングを主としていく事。そして、その中で大きいものを作るか、小さいものを作るか。これから世の中で造られるものがどうなっていくのか。また、以前代表が勤めていた会社で、製品の材料の仕入在庫が経営を圧迫していた経験もあり、微細加工を主としていくという形になりました。

最初の頃は、皆で知恵を出し合い進めるが失敗も多く、設備も古い。その点を技術でカバーし、生まれたのが新工法。理想は女性のパート従業員でも扱えるようなジグを考案しようと現在進めています。製造業とは生き物。良い時と悪い

時があるのでバランスを考えて行くことが大事であると考えています。会社として、新しい構想があった場合、まずやってしまおう。チャレンジするということを方針としています。

現在、更なる品質・技術力の向上の為にISOを取得。また、大手メーカーの上位品質認定を目指しています。今後同業者との事業連携も視野に入れ、拡大していくことで、地元で製造業が活性化していく、人が集まるようなビジネスを展開していきたいと考えています。

技術力をアピール。種をまく。

社長が元営業マンということもあり、会社の評判、影響というの周りのから拡散して、宣伝してもらおうの一番効果が大いと感じ、関係各所や展示会にも積極的に参加。そこで、当社独自の技術力をアピールする。新規先など、難しい技術が必要なものであれば、当社から造らせてください。とお願いし、サンプルを作成。ほとんどの先からOKを頂きます。当社の取引先は、メインがあるわけではなく、顧客のニーズに技術力で応えていく形。そうすると人が人を呼んで次のビジネスに繋がります。もう1つは、これから先どうなっていくのか、業界の動向や新しい技術の情報収集を大事にしており、次の展開や新しいビジネスに活かしていく。様々な形で技術者をアピールするとお客様の方から来て頂きます。

自らチャレンジして成長する

当社にいる社員は、以前いた会社から共に成長してきた社員達が多い。新工法の開発から、リーマンショックの影響を受け、人員削減せざるを得なかった時期もあったが、その後、業況も良くなりその社員達も戻り、また共に働いている。

「会社は一つの枠の中であって、自分がどう生きるのか」というのは、色んなものを勉強して、経験していけば、いざという時それで生きていける。自分の事。そうした人材への思いも、社長が以前勤めていた会社が倒産した経験を持つからである。そうして生まれた精神は、若い社員にも伝わり、マシニング等自分の担当分野だけでなく、他の部署・分野にも自分の仕事が終わった後チャレンジしている。新しい製品・技術開発の会議にも、自ら社員が集まり、知恵と技術を持って取り組んでいます。

「夢の工場」を目指して

会社の夢・目標だけでなく、個人(社員)が自分の夢やロマンを一つ一つ追いかけて欲しい。夢や目標は、何をやるにしても必要だと考えています。社員が一人一人夢を持つ、そして、自分の会社を通して自己実現をしていく。そうした中で生まれた個々の技術力の結集で、当社は社会へ貢献していきたいと考えています。